

令和7年度 第3回親子いきいき会 実施報告書

日時・会場	令和8年2月16日（月）18:30～20:00 市役所 203・204 会議室
出席委員	谷村委員、田上委員、両川委員、竹田委員、藤井委員、高野委員 松澤委員、大西委員、川原委員、飯田委員、八木委員 （11名）
事務局	こども課：飛弾野係長、猪又、野本、金子、横川、山口、安田、小笠原

会議内容

- 開会あいさつ
飛弾野係長
- 安心できる子育て環境づくりについて（妊娠期から1歳頃まで）…資料
猪又主査
- グループワーク 18:55～19:30 （19:30～19:50 発表）
テーマ：産前産後に必要だと思うのは、どんな支援（どんなこと）？
今あるもの、まだないもの等

グループ	メンバー	担当
1 G	谷村委員、両川委員、大西委員、飯田委員	係長、安田
2 G	竹田委員、藤井委員、川原委員	野本、横川
3 G	田上委員、高野委員、松澤委員、八木委員	金子、山口

話し合い内容

【感想】

- ・昔よりもサポートの種類が増えている。
→「糸魚川市で産みたい」につながるのではない。
初めの人使いやすいような利用者の声や口コミがあるといい。
- ・他市よりも産前産後の支援が充実→「糸魚川で産みたい」と思ってもらえるようPR
- ・助成制度が増えていて驚いた。相談体制も充実していると感じる。
- ・糸魚川市は出産が休止になってから色々な良い事業が増えた。
- ・市外の病院へ行くのに交通費や宿泊費などお金がかかっていた。
→経済的支援が増えており、市民の不安軽減につながっている。
- ・スマホでの申請も多いため、使いやすさがある。
- ・あずかる子ちゃんはスマートフォンで手軽に申請できるので今の時代に合っていて良いと思う。
電話が苦手な若者世代にも優しい。妊婦健診初診ですでに登録している人もいる。

【まだないもの、あったらいいもの】

・子どもと母の2人である時間が長いと大変で、糸魚川市では土日に利用できる場所が限られている。

→生活の中で、土日関係なく外に出る場所があるといい。

・予防接種の問診票の記入が多く、時間がかかる。

・産後のメンタルケアとして、母だけでなく、父も含めた取組の実施。

・父が行ってもいいか、参加してもいいか分からないところがある。

→父の参加・利用を促進するために、普及啓発や実際に父が参加している写真を利用。

・父の育休制度について、法律では決まっているが、まだあまり取得できていない状況。

→育休取得のための書類等の紹介。育休取得後の支援。

・小さな事業所も仕事をしながら産休、育休が取りやすい環境。

・市だけでなく、法人・企業・地域などが体制構築。

・育休等の金銭的支援（企業）

→まだ育休を取りたいが無給になるので仕方なく預け始める。支援センターの利用者の年代も広がり活性化するのでは。

・保健師、助産師、保育園や学校の先生など妊産婦に直接関わる様々な職種が支援やサービスを紹介できる体制。

【課題】

・産後ケアやサービスの情報を自分から受け取れる人は利用につながっている。そういった場に出向かない人にこそ支援が必要な場合が多い。出向かない理由は集団が苦手、他のママと年代が合わないなど様々。

・新しい制度や支援も大事だが、対象者を支援につなげる専門職の役割も重要だと思う。

・若いママの中には、核家族で相談する人が周囲におらず、スマートフォンに頼り誤った情報を信じてしまう人がいる。

5 その他

事務連絡 親子の健康に関するお知らせ…なし

次回開催日 令和8年7月頃

第14期の活動は2年間であり、来年度も引き続きお願いしたい。

保護者会代表の方は今年度で交代となるため、谷村委員からご挨拶いただいた。

6 閉会あいさつ

高野副会長

以上